

医療安全をマネジメントシステムで管理する

【医療のための質マネジメント基礎講座】 2025 年度

eラーニングで受講いただけます（開講期間：2025年6月1日～2025年12月31日）

- ※ 1 回毎のご受講も可 全 14 回を修了されると『医療安全管理者養成研修』の研修証明となる修了証書を発行いたします。ただし、『個人申込』の場合に限ります。
- ※ 第 3・4 回 PFC、第 12 回 KYT は、オプションで対面演習を受講いただけます。詳細は 3 ページをご覧ください。
- ※ 1 回毎の講義時間は約 2 時間半～3 時間です。
- ※ 同じ勤務先であれば、開講期間内は人数無制限で視聴いただける『団体申込』プランをご用意しました。集合研修の教材として、ご利用いただけます。詳しくは、料金体系をご参照ください。

- マネジメントシステムを専門とする大学関係者と医療安全管理従事者からなる充実した講師陣
- 講義の他、演習や病院の事例紹介を取り入れ具体的に体得するカリキュラム
- 日々の医療活動にお役立ていただける講座ラインナップ

テーマと概要	講師
【第 1 回】 医療の質マネジメントシステムの基本 -医療の質向上に必要な“標準化”と改善活動を学ぶ- 医療の質向上を進めるためには、標準化と改善活動が必要です。これを組織的に行うには、この講座で学ぶことを用いて、質マネジメントシステムを運用するのが効果的な方法です。そのための基本的な考え方と、医療の質をマネジメントするとはどういうことかを解説します。	早稲田大学理工学術院 教授 棟近 雅彦 (株)麻生飯塚病院 特任副院長 福村 文雄 大久野病院 進藤医院 理事長 進藤 晃
【第 2 回】 医療の質向上をめざした QMS の導入と推進 -組織全体で QMS に取り組むためのノウハウを学ぶ- 医療における質向上をめざし、QMS を導入・推進するためにどのようなステップ、観点・活動が必要なのか、実際の導入病院での事例をベースに具体的にご説明します。また、講師の経験から、よく挙がる疑問や問題についても取り上げ、解消法についても解説し、導入・推進のステップとともに、組織全体で QMS に取り組むためのノウハウをお伝えします。	清水建設 田中 宏明 仙台医療センター 総合品質管理推進部 部長、外科医長 手島 伸 大久野病院 進藤医院 理事長 進藤 晃 埼玉病院 院長 細田 泰雄
【第 3 回】 PDCA サイクルによる日常管理の基礎 -医療業務の可視化と改善に必要な PDCA サイクルのまわし方を学ぶ- 【第 4 回】 プロセスフローチャート（PFC）を用いた医療業務プロセスの可視化 -来院から会計まで、普段の診療の流れを書いて学ぶ- 質が高く効率的な医療を提供するには、普段の業務を可視化によって振り返り、改善を重ねる必要があります。しかしながら、医療業務は複雑であり可視化や改善は簡単ではありません。「日常管理の基礎」では、改善に必要な考え方である PDCA サイクル・プロセス管理について、個人ワークを交え学習します。「PFC を用いた医療業務プロセスの可視化」では、患者来院から会計までの診療の流れを実際に書き出す方法を学び、複数の病院での PFC 作成や活用事例をご紹介します。 第 3 回・第 4 回は続けてご受講することをお勧めいたします。	東海大学情報通信学部情報通信学科 教授 金子 雅明 清水建設 田中 宏明 東海大学情報通信学部情報通信学科 教授 金子 雅明 川口市立医療センター 医療の質・安全管理センター 看護師長 飯塚 貴美 前橋赤十字病院 研修管理課 研修管理係長 坂本 恭子
【第 5 回】 文書管理から取り組む組織基盤構築の推進 -文書管理の不備や非効率を改善し、“標準化”を円滑に進める- 改善しても一向に定着せず長続きしないことがないでしょうか。診療科、病棟、そして個人ごとにローカル・ルールが多く存在し、業務が煩雑になったり非効率的になったりしていることはないでしょうか。これらはいずれも院内の文書管理に不備があることに起因しています。本講義では、組織全体として標準化や改善を円滑かつ組織的に進めるために文書をどのように管理すればよいか、第 3、4 回の PFC との関係は何か、具体的にどんな文書が必要か、どのように導入・推進していくべきかについて、実践事例の紹介とともに説明します。	清水建設 田中 宏明 元 古賀総合病院 TQM 推進室 顧問 日科技連 ISO 審査登録センター(外部契約審査員) 小山 徳子 (株)麻生飯塚病院 総務課 主任 高嶋 麗子
【第 6 回】 「内部監査」の枠組みを活用した業務改善 -プロセスの視点から組織的に改善する方法を学ぶ- ISO9001 では組織の継続的改善のために「内部監査」が必要であるとされています。しかし内部監査を医療で適用するには様々な工夫が必要です。この講座では、特にプロセスの視点で業務の改善をするための方法として「内部監査」をどのように活用したらよいかを学びます。また、複数の病院における内部監査の実施方法や工夫について紹介します。	東海大学情報通信学部情報通信学科 教授 金子 雅明 清水建設 田中 宏明 前橋赤十字病院 研修管理課(兼)健診課 課長 角田 貢一 仙台医療センター 総合品質管理推進部 部長、外科医長 手島 伸 埼玉病院 看護師長 永井 美香

テーマと概要	講師
<p>【第7回】 医療の質・安全保証を実現する患者状態適応型パスシステム (PCAPS) -患者の状態に合わせて医療の質を可視化するツールを学ぶ- 「臨床プロセス」と「業務プロセス」の両者から影響を受ける医療の「質」。これらのプロセスを個々の患者の状態に合わせて可視化するための方法として、患者状態適応型パス統合化システム(PCAPS)について解説します。PCAPSとは「プロセスによる質安全保証」を実践するためのツールです。PCAPSの導入の取組事例もご紹介します。</p>	<p>東京大学総括プロジェクト機構 & 特任教授 水流 聡子 大久野病院 進藤医院 理事長 進藤 晃 (株)麻生飯塚病院 特任副院長 名取 良弘</p>
<p>【第8回】 医療安全管理システムと医療安全に関わる制度 -医療機関における安全管理体制について、病院事例とともに学ぶ- 医療機関における安全管理体制について、制度等の経緯や背景、医療安全管理システムにおけるモデルシステム設計、組織化、普及・実践活動、評価改善の仕組みについて、病院の取り組み事例のご紹介とともに具体的にお伝えします。</p>	<p>東京大学総括プロジェクト機構 & 特任教授 水流 聡子 (株)麻生飯塚病院 特任副院長 福村 文雄 川口市立医療センター 元副院長 坂田 一美</p>
<p>【第9回】 “注意不足”にしないためのプロセス型事故分析 -与薬事故事例を中心に、短時間でできる分析手法を学ぶ- 注意不足と書かれたインシデントレポートばかり溜まっていませんか？ 注意不足から一歩踏み込んで、プロセスに着目しましょう。プロセス指向を実践するための与薬事故分析手法を中心に、与薬事故を分析するための手法を解説します。演習もあるので講義の理解を深めていただけます。</p>	<p>拓殖大学 商学部 教授 佐野 雅隆 武蔵野赤十字病院 看護師長 稲吉 礼子</p>
<p>【第10回】 同じ事故を再発させないための対策立案 -エラープルーフ（エラー発生率を下げる作業方法の工夫）を学ぶ- 対策しても、しばらくすると同様の事故が発生していませんか？そんなときはエラープルーフ化の出番です。エラーの発生確率を下げるための作業方法に関する工夫について学び、対策立案方法について、ケーススタディを交えて学習します。</p>	<p>拓殖大学 商学部 教授 佐野 雅隆 武蔵野赤十字病院 看護師長 稲吉 礼子</p>
<p>【第11回】 転倒・転落事故の防止対策と5Sの実践法 -事故を未然に防ぐためのリスク分類や評価を学ぶ- 医療事故の中で、与薬事故に次ぐ発生件数を数え、事故の影響も大きいのが転倒転落事故です。転倒転落事故を防止するために、リスク分類や評価(アセスメント)を用いた活動について、実践事例を交えてお伝えします。また、事故防止、安全感染防止、顧客満足の向上につながり働きやすい職場とするための5S＝整理・整頓・清掃・清潔・習慣(しつけ)活動について、病院の導入事例をご紹介します。</p>	<p>拓殖大学 商学部 教授 佐野 雅隆 日本赤十字社 医療事業推進本部 医療の質研修部 参事 黒川 美知代</p>
<p>【第12回】 危険予知トレーニング (KYT) 手法 -ヒューマンエラーを未然防止し、医療安全力を強化する- 医療の現場において、ヒューマンエラーの未然防止は重要な課題です。ここでは、ヒューマンエラーを未然防止するための危険予知トレーニング手法について、ケーススタディを交えて学習します。また、KYTシートの作成方法や、現場でKYT活動を展開するためのコツをお話しします。</p>	<p>静岡大学情報学部行動情報学科 准教授 梶原 千里 武蔵野赤十字病院 看護師長 稲吉 礼子</p>
<p>【第13回】 医療の質・安全を高める教育カリキュラムの作成とその実践 -教育不足等の課題解決に向けてカリキュラム立案に必要なツールを学ぶ- 「毎年、教育内容を見直している」「新人職員以外への教育が不足している」といった課題に直面していませんか？このような課題を解決するには、『誰に、どのようなことを教育するか』ということを整理した教育カリキュラムを立案することが重要です。本セミナーでは、医療の質・安全教育カリキュラムを立案するときに活用できるツールを解説します。また、病院の取り組み事例もご紹介します。</p>	<p>静岡大学情報学部行動情報学科 准教授 梶原 千里 川口市立医療センター 元副院長 坂田 一美 前橋赤十字病院 消化器内科、元副院長 阿部 毅彦</p>
<p>【第14回】 問題解決法 (QCストーリー等) と組織的改善活動 -効果的・効率的に改善を進めるコツを学ぶ- 改善を進めるには、意欲も大切ですが、役に立つ道具を持っていた方が効果的、効率的に行えます。本単元では、改善を進める際に知っておいた方がよい基本的考え方、問題解決手法であるQCストーリーなどについて解説するとともに、実際に行われている病院での組織的改善活動を紹介し、病院で改善を効果的、効率的に進めるためのコツをお伝えします。</p>	<p>早稲田大学理工学術院 教授 棟近 雅彦 古賀総合病院 理事、ME技術部顧問 関 孝</p>

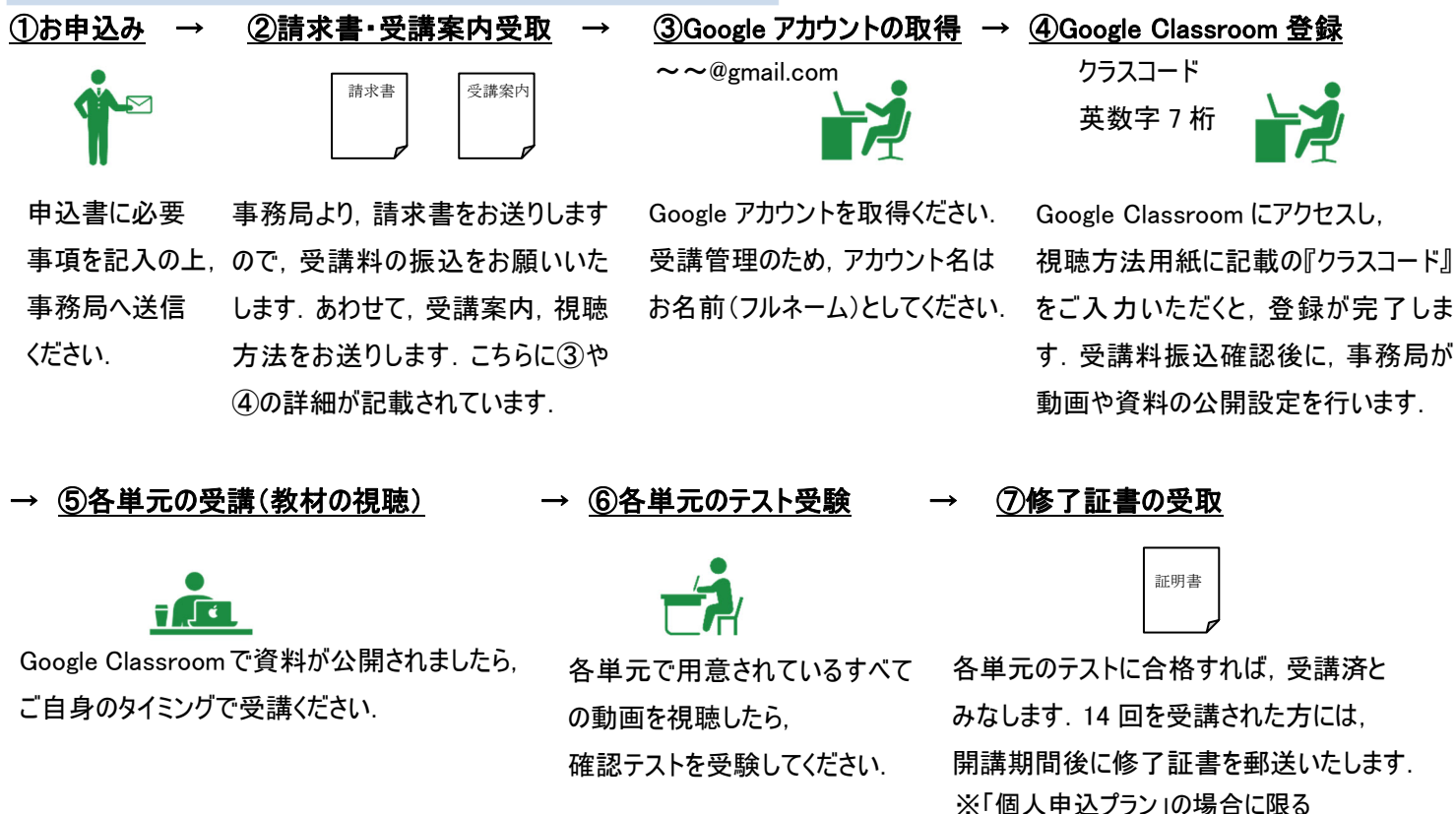
【受講方法および条件】

- ・ お好きな時間に、お好きな場所で視聴いただける『オンデマンド教材』です。動画は理論編と事例編に分かれており、各回複数の動画で構成されています。団体申込の場合は、受講対象者にあわせて視聴する動画を選定できます。
- ・ 第 3, 4 回「プロセスフローチャート(PFC)」、第 12 回「危険予知トレーニング(KYT)手法」は、オンデマンド教材に加え、追加料金をお支払いいただければ、対面演習を受講いただけます。なお、対面演習はオンデマンド教材での受講を前提としていますので、参加前の受講が必須です。なお、こちらは、対面演習の受講を希望される方向けの“オプション”で、医療安全管理者養成研修の時間にはカウントしません。オンデマンド教材のみで 14 回の受講を完了することも可能です。団体プランの方もお申込みいただけます。
- ・ 今年度の対面演習の日時は以下の通りです。 ※対面演習の申込期限は、2025 年 9 月 30 日です。

- | |
|------------------------------------------------------|
| ー 日時・単元：2025 年 10 月 25 日(土) 12:30～14:00 (第 12 回 KYT) |
| 同日 14:15～17:15 (第 3 回, 第 4 回 PFC) |
| ー 場所：早稲田大学西早稲田キャンパス(東京都新宿区) ※後日、お申込者へ詳細をご連絡します。 |

- ・ なお、これ以外にも質疑応答やオンデマンド型演習のフォローアップ研修をリアルタイム型で開催する可能性があります。こちらもフォローアップが目的ですので、医療安全管理者養成研修の時間にはカウントしません。
- ・ 本講座は教材管理/視聴管理のプラットフォームとして、Google Classroom を使用いたします。そのため、受講にあたり、Google のアカウントを取得いただく必要があります(無料で取得できます)。
- ・ 視聴確認のためのテストやアンケートは、Google フォームを使用いたします。そのため、ご入力いただいた情報は Google サーバーにも保管されますが、本フォームで収集する情報(個人情報含む)は、本講座の運営のためにのみ使用いたします。収集いたしました個人情報を他の目的で使用することはありません。Google Classroom および Google フォームのご利用に際しては、Google ポリシーと利用規約、Google 社のプライバシーポリシーをご参照ください。(https://policies.google.com/?hl=ja)。お申込みいただいた時点で、本件をご了承いただいたものと判断いたします。
- ・ Google Classroom では、受講者のお名前が受講生同士に表示されます。病院名やメールアドレスなど、その他の情報は公開されません。
- ・ 本講座に関する内容は、全部・一部に関わらず、講師・事務局の許可無く共有・転載・録画・複製等することは禁止されています。お申込みでない方とのクラスコードの共有、SNS への画面の転載、記録保存を意図する動画キャプチャーなど、情報倫理を逸脱する行為はお控えください。

【お申込みから受講までのイメージ図 (個人申込プランの場合)】



【料金体系】 以下の2つの料金体系をご用意しています。

- (1)個人申込プラン : 全14回受講の修了証書の発行をご希望の方はこちらでお申し込みください。こちらでお申込みの場合、希望される方には各単元の受講証明書をメールで送付いたします。
- (2)団体申込プラン : 同じ勤務先であれば、開講期間内は人数無制限で視聴いただけるプランです。団体内の方にクラスコードを共有していただくことで、個人のPCで受講可能です。多人数が集まったの集合研修の実施が難しい場合に最適です。ただし、修了証書や受講証明書の発行は行いません。

◎ オンデマンド受講料金 (税込み価格)

	(1)個人申込 おひとり1回(1単元)あたり	(2)団体申込 ※1 病院単位で1回(1単元)あたり
一般	6,600円	49,500円
日本品質管理学会 医療の質・安全部会員	4,400円	33,000円 ※2

※1: 団体でお申し込みいただき、そちらで受講されていた方が、途中で修了証書の発行を希望される場合は、全14回に対して(1)個人申込をしていただくこととなります。(14回分の受講確認のあとに、修了証書を発行します)

※2: 団体内におひとりでも日本品質管理学会 医療の質・安全部会員の方がいらっしゃいましたら、(2)団体申込プランの受講料は33,000円/回となります。申込時に入会状況を確認いたします。

◎ 対面演習 受講料金(オプション)

第3,4回 PFC : 4,400円 第12回 KYT : 2,200円

個人申込、団体申込、一般、部会員問わず、上記価格です。なお、状況により、対面演習を中止する場合がございます。その場合は対面演習受講料金を返金いたします。自己都合で欠席される場合はこの限りではありません。

【お申込者の声】

川口市立医療センター 様 (個人・団体申込)

幹部および質マネジメント活動の推進を担ってほしい職員には、個人申込で受講してもらっています。幹部にはQMSの考え方を学ぶ4つの単元に絞って受講してもらっていますが、推進者12名(2020年度の人数)には全14単元を受講してもらいました。団体申込は計10単元を申し込み、質安全層別研修や医療安全研修といった既存の教育体系の一要素として、基礎講座を取り入れています。具体的には、基礎講座の動画を視聴してもらったあとに、院内講師がファシリテーターとなって演習を実施したり、昼食休憩時に講堂で動画を流し、医療安全研修の一環として視聴してもらったりしています。各病院で必要と思われるコンテンツを自由に組み合わせられるため、既存の教育研修の内容をブラッシュアップすることができると思います。

京都市立病院 様 (団体申込)

質マネジメントシステムの考え方や手法の啓蒙のために、全14単元を団体プランで申し込みました。医療の質推進委員会や医療安全委員会のメンバーには、必ず受講してもらうように依頼しています。自分の好きな時間に視聴できることもあって、開始2ヶ月でClassroomへの登録者が100名以上となりました。中には、10日ほどすべての単元を受講してくれた医師もいます。「医師として、QMSに関わる必要性を痛感し、モチベーションが高まった」との感想があがっています。また、他の医療安全管理者養成研修を受講したりスクマネージャーも、さらなる知識獲得のために受講してくれています。東京での集合研修に参加できないことは残念ですが、旅費を受講費へ充てることができ、東京へ行かなくても、院内の多くの職員へ受講の機会を与えることができるので、とても助かっています。

【お申込み方法、お問い合わせ先】

- ・ QMS-H研究会 HP 基礎講座ページの『申し込みフォーム』よりお申し込みください。

<https://qms-h.org/kiso/>

- ・ お問い合わせ先 医療の質マネジメント基礎講座事務局

E-mail : kisokouza@tqm.mgmt.waseda.ac.jp

TEL : 03-5286-3304

住所 : 〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1 51号館14-10B室



**QMS-H研究会 HP
基礎講座ページ**